（別紙様式４）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成29年10月1日※1
（前回公表年月日：平成　年　月　日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
中央農業グリーン専門学校	平成22年12月21日	長島　英治	〒371-0805 群馬県前橋市南町2-31-1 （電話）027-220-1200
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人有坂中央学園	昭和40年12月24日	理事長 中島利郎	〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-4 （電話）027-256-7000

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
農業	農業専門課程	農業経営学科 （農業ICTコース）	平成25年文部科学大臣告示第2号	

学科の目的	6次産業化をふまえた農と食の専門的知識や技術を習得し、職業に必要な実践的な能力を身につけ、 食を通じた提案や生産者と消費者を結びつけられる人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成　年　月　日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1860時間	690時間	540時間	630時間	0時間	0時間
		単位時間					

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人	4人	0人	4人	14人	18人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 期末における筆記試験を実施すると共に授業出席率、受講態度及び課題提出物等を総合的に判断し、評価する。
長期休み	■学年始：4月1日 ■夏　季：7月23日～8月31日 ■冬　季：12月18日～1月10日 ■学年末：3月31日	卒業・進級条件	所定の修業年限以上在学し、課程を修了したもの
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 保護者との定期的な連絡 登校時の個別指導・状況確認	課外活動	■課外活動の種類 ・ボランティア部 ・新商品開発プロジェクト ・イノベーションサークル ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（平成28年度卒業生） ■就職指導内容 マナー指導、履歴書の書き方指導、面接指導、模擬面接、面談、求人情報提供 ■卒業者数　人 ■就職希望者数　人 ■就職者数　人 ■就職率　：　% ■卒業者に占める就職者の割合　：　% ■その他 平成29年4月開講 （平成　28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報） 資格・検定名 ｜ 種 ｜ 受験者数 ｜ 合格者数 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者　名　■中退率　% 平成28年4月1日時点において、在学者0名（平成28年4月1日入学者を含む） 平成29年3月31日時点において、在学者0名（平成29年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 個別学生面談/教職員間の情報共有		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有・無 特待生入試（初年度28万円免除）　特別推薦入試A（初年度8万円免除）　特別推薦入試B（初年度4万円免除）　特別入試（初年度15万円免除）　兄弟姉妹割引制度（初年度8万円免除）、有坂奨学金 年間10万円 ■専門実践教育訓練給付：　給付対象　・　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　有　・　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）		
当該学科のホームページURL	http://www.chuo.ac.jp/cag/course/ict/		

（留意事項）
1．公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3．主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本学科は職業実践の推進を図ることを目的に、中央農業グリーン専門学校農業経営学科と企業等が有する知識・技術・技能を統合し、産学の連携を推進する事により、人材の専門性を向上させ、地域の産業振興や社会貢献を図り、実務実践能力の育成に資することを目的とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は学校長の統括のもとに、カリキュラム委員会の下部に属し、本校の教育体制及び教育制度の改善・整備に関する実現方策等の検討を行い、取りまとめると共に、次に掲げる事項について審議及び連絡調整を行う。
（1）授業科目の開設に関する事項
（2）授業内容に関する事項
（3）授業方法の改善・工夫に関する事項
（4）教員の実務研修に関する事項
（5）学校関係者評価に関する事項
（6）その他学科及び専門学校の教育に関する事項

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
藤井　啓太郎	群馬県農業協同組合中央会	2017年4月1日～2018年3月31日	①
須藤　泰人	群馬県農業法人協会		①
田村　新衛	NPO法人群馬の食文化研究会		②
田中　伸治	有限会社ファームクラブ		③
長島　英治	中央農業グリーン専門学校　学校長		
住谷　公久	中央農業グリーン専門学校　副校長		
牛久　和弘	中央農業グリーン専門学校　教務次長		
石川　茂弘	中央農業グリーン専門学校　農業経営学科長		
岡庭　千代乃	中央農業グリーン専門学校　食農調理学科・食農調理師学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回

（開催日時）

平成29年度　第1回　平成29年8月　26日　13：30～14：30開催
平成29年度　第2回　平成30年2月開催予定

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
・教育課程編成委員会で議論された内容、提案された事項（有機栽培の付加価値を活かすこと、就職を視野に入れた人間力の向上、留学生の受け入れ体制など）を本校カリキュラム委員会にて検討し、実行可能なものは、随時反映していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目を開設し、学生の指導や学修成果の評価等に関する連携体制を確保して、最新の業務を的確に反映した教育を行なう。企業等が学習活動に関わり、学習者と企業等が相互理解を深められる学習機会とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

企業と協定を結び、シラバス（講義概要　目的・指導方法・評価方法）に学習内容を掲載し、指導内容を明確にして授業を行う。学生の理解度を把握するために、随時アンケート・テストを実施する。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
農業基礎実習Ⅰ	農場における各種栽培管理実習を通じ、農業の基本的な知識、技術を理解する。	match合同会社
農業基礎実習Ⅰ	農場における各種栽培(水耕(播種、定植、収穫、調整)、野菜(トマト、イチゴ))管理実習を通じ、最新の栽培技術、農業の基礎的な知識、技術を理解・習得する。	有限会社　ファームクラブ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

実務に関する知識・技術・技能の向上と指導力の向上を目指した研修を実施する。また、階層別研修やOJTによる組織的な人材育成の取組を支援するとともに、教員の学ぶ意欲や向上心を喚起する魅力ある研修を実施し、職員の自己啓発意欲を高める。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

・2017年2月有機認証機関における認定審査実地調査に同行し、有機農法とその現場、認証調査における留意点を学んだ。

②指導力の修得・向上のための研修等
・2016年8月各テーマ（危機管理、学級経営、留学生対応）の発表を聞いて、学生指導に反映させる研修を受講した。
・2016年12月グループ各校から今年度の実践事例を聞き、学生指導の参考にする研修を受講。
・2017年3月ハラスメント等に関する規定について、グループの顧問弁護士を招き、防止策や発生の際の対処方法について研修した。
（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

2017年9月　就農資金運用について講座聴講
2017年9月　農業の今後の展望について講座聴講

②指導力の修得・向上のための研修等

・2017年8月教育者向けの教育コーチング研修
・コマシラバス作成の基礎知識を学ぶインストラクショナルデザイン研修

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

各学校が、保護者や学校関係者による自己評価を行い、その結果の公表・説明を行うことで、適切に説明責任を果たす。保護者や地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	専門分野の特性、学校の理念、目的、育成人材像、将来構想
（2）学校運営	目的に沿った運営方針、事業計画、規定、コンプライアンス、情報公開
（3）教育活動	教育課程の編成・実施方針、工夫、開発、外部評価、判定基準
（4）学修成果	進学率、就職率、資格取得率向上、退学率低減
（5）学生支援	経済支援体制、健康管理、生活環境支援、卒業生支援、職業教育取組
（6）教育環境	施設設備の整備、教育体制の整備、防災体制の整備
（7）学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の伝達
（8）財務	財政基盤、予算収支計画、会計監査、財務情報公開
（9）法令等の遵守	設置基準の遵守、適正な運営、問題点の改善、自己評価公開
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献活動、ボランティア活動、公開講座、教育訓練
（11）国際交流	留学生の受入・派遣、国内外での評価

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
・6次産業化をすすめるために必要な知識を学ぶカリキュラムとしているが、その知識を6次産業化においてどう活かすか、をさらに学べるよう取り組む。
・学生のメンタル面のフォローを専門家の先生も依頼しながら実施する。
・卒業生に向けた研修、ワークショップも検討していく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
須藤　泰人	(有)ロマンティックデーリィファーム	2017年4月1日～ 2018年3月31日	企業等委員
竹内　佳晴	中央農業グリーン専門学校　特別講師		企業等委員
田中　伸治	有限会社ファームクラブ		企業等委員
栗原　諒雅	フランシスコの町		卒業生
長島　英治	中央農業グリーン専門学校　学校長		校長
住谷　公久	中央農業グリーン専門学校　副校長		その他
牛久　和弘	中央農業グリーン専門学校　教務次長		その他
石川　茂弘	中央農業グリーン専門学校　農業経営学科長		その他
岡庭　千代乃	中央農業グリーン専門学校　食農調理学科・食農調理師学科長		その他

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　）

ホームページにて公開（http://www.chuo.ac.jp/cag/about/#koukaijouhou

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本学は、情報公開等の推進を進め，国民や社会に対する説明責任を重視した、社会に開かれた専門学校を目指しています。そのため、教育・研究，組織・運営、人事、財務など本学の諸活動全般に関する情報を、社会に対し積極的に提供します。情報の提供は、本学ホームページへの掲載及びその他冊子などの発行、閲覧の申し出により行います。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材育成の目標、指導計画、経営方針
（2）各学科等の教育	入学者数、収容定員、在学生数、カリキュラム、進級・卒業要件
（3）教職員	教職員数、組織、教員の専門性
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組、実習実技等の取組、就職支援
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
（6）学生の生活支援	中途退学、心身の健康、留学生支援、障害者支援
（7）学生納付金・修学支援	金額、納入時期、経済的支援措置、
（8）学校の財務	事業報告、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価、改善方策
（10）国際連携の状況	留学生の受入、外国の学校との交流
（11）その他	厚生施設の案内

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）

授業科目等の概要

（農業専門課程農業経営学科）平成２９年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネス教養	企業が求める人材には、専門的な知識を持っていることに加えて、基本的なビジネスマナーやコミュニケーションを備えていることが挙げられる。ここでは、『社会常識』、『コミュニケーション』、『ビジネスマナー』を中心に社会で働くために求められる能力と知識を習得することを目的とする。	1・前	30	1		○		○			○	
○			マーチャンダイジング	小売業が商品を品揃えし、消費者に対して販売する活動がマーチャンダイジングである。マーチャンダイジングの構成要素である商品計画の策定、販売計画の策定、仕入計画、価格設定、販促企画、荷受・検品、保管、補充、ディスプレイ、商品管理、補充発注についての仕組みを学習する。	1・後	30	1	○			○		○		
○			マーケティング	マーケティング（Marketing）とは、顧客ニーズを的確につかんで製品計画を立て、最も有利な販売経路を選ぶとともに、販売促進努力により、需要の増加と新たな市場開発を図る企業の諸活動を意味する。本科目では、概論から顧客管理（フリークエント・ショッパーズ・プログラム:FSP） 顧客を売上別に分類し，それに応じたサービスの差別化を行う手法等を学ぶことを目的とする。	2・前	30	1	○			○		○		
○			販売・経営管理	販売員の基本業務、接客マナー、法令知識、計数管理、開店準備から日々の業務、売り場の陳列や包装に至るまで、店舗を運営するうえで欠かせない基本知識を学ぶ。また、さまざまな小売業の類型や小売業と卸売業の役割についても学ぶ。	2・通	60	2	○			○		○		
○			パソコン実習Ⅰ	文書作成（Word）・表計算（Excel）・プレゼンテーション（PowerPoint）の各ソフトの活用方法を学ぶ。基本的操作を学んだ上で、実際の職場での業務を想定した題材を取り上げ、実践的な技術を習得する。また、卒業研究において、資料作成や発表方法にも活用する。	1・後	30	1			○	○		○		
○			パソコン実習Ⅱ	職場で役立つパソコンを効率よく活用するため、また商品のパッケージデザイン等を行う際に必要なIllustrator,Photoshopの基本操作を習得する。	2・後	30	1			○	○			○	
○			ＰＯＰ・色彩	ＰＯＰ広告は、商品の正確な情報や魅力を伝え、消費意欲を促す手段として欠かすことのできないものである。消費者の購買心理を理解し、ニーズに訴え、伝達する能力を学ぶ。ここでは、販売促進の基礎とＰＯＰ広告作成に関する基本知識を習得することを目的とする。	1・後	30	1	○			○			○	
○			環境と農業・有機農法	科学技術の発展に伴い、人々は物質的な豊かさや快適な暮らしを手に入れてきたが、その一方で大切な自然環境や農地を失い、深刻な環境問題や食料・人口問題を引き起こしてきた。これからの環境と農業の役割を解決する手がかりを考えてみたい。 農業が環境に対してもたらす利益と負荷を同時に考え、環境負荷の軽減と消費者ニーズ対応の為、ＪＡＳ法に定める有機農産物認証制度について理解し、慣行農法と比較した場合の特徴と現状を認識する。	2・前	30	1	○			○		○		
合計				8科目	270単位時間（　9　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が２０日以下の者。②卒業基準の検定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

授業科目等の概要

（農業専門課程農業経営学科）平成２９年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			野菜園芸概論	わが国の代表的な野菜を取り上げ、その生理生態的特性を中心に学習し、野菜栽培技術の基礎・基本や実際栽培の方法について理解を深める。	1・通	30	1	○			○			○	
○			花卉園芸概論	多様な花きについて、生産と利用の両面から考え、主要な花卉の栽培法を学ぶ。	1・通	30	1	○			○			○	
○			果樹園芸概論	果樹の生理･生態と栽培技術の基本、主要果樹の栽培技術の特徴や要点、果実の利用まで幅広く学習する。	1・後	30	1	○			○			○	
○			農業機械概論・農産物加工論	現代の食生活において、加工食品は欠かせないものとなっている。その重要性の観点から食品の保存原理や加工に対する知識・安全性・原料を学び、食品加工に対する正しい知識と、食品加工の原材料となる農畜産物を安定的に生産･供給するために、農業機械は必要不可欠になっており、その利用は、多様で幅広い。基本的な構造や機能、運転方法等も学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
○			農業情勢Ⅰ・農業経営	「食」は生きるためになくてはならないものである。農業は「食」を供給する重要な産業である。しかし、農業を取り巻く環境は、食料価格の高騰．環太平洋連携協定交渉等などの課題が存在し、予断を許せない状況になっている。農業の新しい展望を開くためには、農業の諸情勢を理解することが重要となってくる。また、土地、労働力、資本などの要素を結合し、農産物の生産・販売を行う継続的な組織体について学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
○			農業基礎概論	土地の生産力を発展させるために、土と肥料に関する知識を基本的に学習していく。病害虫・雑草・災害による被害をできるだけ少なくするための基礎的な知識と問題点を学ぶ。作物（豆類、いも類など）についての基本的な内容を学習する。家畜の基本的な生理・生態、飼料の生産と利用、主な家畜の品種と改良、飼育の実際など学び、家畜や畜産について理解を深める。 土地の生産力を発展させるために、土と肥料に関する知識を基本的に学習していく。病害虫・雑草・災害による被害をできるだけ少なくするための基礎的な知識と問題点を学ぶ。作物（豆類、いも類など）についての基本的な内容を学習する。家畜の基本的な生理・生態、飼料の生産と利用、主な家畜の品種と改良、飼育の実際など学び、家畜や畜産について理解を深める。	1・通	30	1	○			○			○	
合計				6科目	180単位時間（　6　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が２０日以下の者。②卒業基準の検定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

授業科目等の概要

（農業専門課程農業経営学科）平成２９年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			農業会計	簿記は、経営活動を一定の記帳原理にしたがって、組織的に記録・計算・整理する技術であり、財政状態・経営成績を把握するためには不可欠なものである。日々の経営活動を記録し決算までを行う知識・技能を学ぶ。簿記検定資格取得を目標に問題演習を行う。	1・通	90	3	○			○		○		
○			農業基礎実習Ⅰ	農場における各種栽培管理実習を通じ、農業の基礎的な知識、技術を理解・習得する。授業は校外の圃場での実習を基本とし、必要に応じ、現地視察などを取り入れ、水稲、野菜、作物、果樹などの栽培を班別に実習形式で行う。体系的な実習と都度の記録・振り返りを通じて、創造的・実践的態度を身につける。	1・通	240	8			○		○	○		○
○			農業基礎実習Ⅱ	農場における各種栽培管理実習を通じ、農業の基礎的な知識、技術を理解・習得する。また、出荷、販売を目的とし、品質のよい作物の生産を理解・習得する。授業は校外の圃場での実習を基本とし、必要に応じ、現地視察などを取り入れ、野菜・作物などの栽培を班別に実習形式で行う。自主的な作付計画立案、体系的な実習と都度の記録・振り返りを通じて、創造的・実践的態度を身につける。また、農業が環境に対してもたらす利益と負荷を考え、慣行農法と比較した場合の有機農法が持つ特徴と現状を認識する。	2・通	120	4			○		○	○		
○			食品加工論	加工食品の保存の原理を理解し、食品の保存性を高めるために用いられているさまざまな加工技術について理解する。	2・通	30	1	○			○			○	
○			食品流通論	マーケティング戦略構築のため、食品流通の成り立ちと特徴を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
○			農業情勢Ⅱ	農業とは、作物や家畜を育てる生産だけに限定するものではない。生産物を加工・販売など幅広い経済活動を包括的に捉える事が必要である。長期的、総合的な判断へと導くために一部は農業経済、市場（流通）の仕組み、二部は国の内外の農業情勢を提供したい。	2・後	30	1	○			○			○	
○			６次産業化基礎	６次産業は、生産から加工・販売までを総合的に取り組む産業である。１次産業×２次産業×３次産業の掛け算産業である６次産業を、総合的に理解するため、事例を通して６次産業化の理論的背景や意義、マーケティング戦略、ブランド戦略など６次産業化に必要とされる知識を習得する。	1・後	30	1	○			○		○		
合計				7科目	570単位時間（　19　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が２０日以下の者。②卒業基準の検定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（農業専門課程農業経営学科）平成２９年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			６次産業商品開発Ⅰ・Ⅱ	６次産業は、生産から加工・販売までを総合的に取り組む産業である。ここでは、６次産業を実践する上で必要となる商品開発、商品企画等の知識を実践的な演習を通して習得する。	2・通	120	4	○			○		○		
○			農業データベース（ICT）	「データベース」とは、大量のデータを一定の形式で保存しておき、必要なときに必要な形で簡単に取り出せることを目的として考え出されたシステムです。Access（リレーショナル型データベース）の操作を修得し実務に役立つシステム構築まで学ぶことを目的とする。また、POS (Point Of Sale)システム、ICT(Information and Communication Technology)の現状にも触れる。	2・通	60	2			○	○		○		
○			農産物加工実習	加工食品の保存の原理を理解し、食品の保存性を高めるために用いられているさまざまな加工技術について理解する。	2・通	30	1			○	○			○	
○			農業ビジネス実習	農場における自主的な各種栽培管理実習を通じ、農業の基礎的な知識、技術を応用し理解・習得する。また、出荷、販売を目的とし、品質のよい作物の生産を理解・習得する。授業は校外の圃場での実習を基本とし、必要に応じ、現地視察などを取り入れ、野菜・作物などの栽培を班別に実習形式で行う。自主的な作付計画立案、体系的な実習と都度の記録・振り返りを通じて、創造的・実践的態度を身につける。	2・通	60	2			○		○	○		
○			有機農法実践実習	農場における自主的な各種栽培管理実習を通じ、農業の基礎的な知識、技術を応用し理解・習得する。また、有機農法を理解し、化学肥料、農薬などを使用しない環境に配慮した農法を学ぶ。自主的な作付計画立案、体系的な実習と都度の記録・振り返りを通じて、創造的・実践的態度を身につける。	2・通	60	2			○		○	○		
○			農業ＩＣＴ実践Ⅰ	Agri×Techとして、農業分野で情報技術をどのように利用できるかを学ぶ。情報技術分野における基礎的な知識や操作の学習とともに、情報技術を利用した農業の実務を学習する。IoT、Web、Cloud等の環境を活用できるよう、簡易の開発や、運用の実習を行う。	1・通	120	4		○		○			○	
○			農業ＩＣＴ実践Ⅱ	１年次に学習した内容をベースに、情報技術の農業分野への活用を学習するとともに、学生自ら考え具体的な応用方法を創造し開発する。また、農場における実習とも関連付け、自らの開発案を農業実習における栽培管理の過程で実証し、PDCAサイクルを通して学びをより深化させていく。	2・通	120	4		○		○			○	
合計				7科目	570単位時間（ 19 単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が２０日以下の者。②卒業基準の検定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（農業専門課程農業経営学科）平成２９年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ＩＣＴ基礎実習	経済産業省ＩＴパスポート試験に合格するために必要なコンピュータ知識から、システム開発・マネジメント、経営戦略までを学習する。	1・後	90	3		○		○		○		
○			卒業研究	「農」や「食」に関する課題を設定し、その課題解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。また、研究成果を発表する為のプレゼンスキル・能力についても、研究内容をまとめていく中で、実践的に学習し習得する。	2・後	60	2		○		○		○		
○			農業ＩＣＴ基礎	就職活動は学生にとって最大の問題解決行動であり、これを実践する機会でもある。本授業を通じて、自分の人生・将来設計を考え、社会の一員になる事がどういう事か学ぶ。授業では、就職活動を柱に社会常識、コミュニケーション能力、問題解決の取り組み方、進め方について学習する。また、社会生活の様々な場面で必要となる基本的な経済に関する知識も習得し、『経済記事の読み方検定3級』（Ｅ検）の合格を目指す。	1・通	60	2		○		○		○		
○			農業ＩＣＴ応用	農業、ＩＴ、各種業界で必要となる知識・技術・教養の習得を目標とし、演習形式でそれらスキルを身につける。また、１年次の学習を基礎とし、就職活動をする上で必要となる教養・マナー・コミュニケーション能力の習得も併せて行い、卒業後の社会生活において必要となる総合的スキル・実践的スキルを身につける。	2・通	60	2		○		○		○		
合計				4科目	270単位時間（　9　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が２０日以下の者。②卒業基準の検定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。